

信濃川水系上小圏域河川整備計画(原案)に対して公述の申し出を頂いた意見

番号	公述申出書の内容	県の考え方
1	<p>既にご承知のことは存じますが、当上小地域におきましては、地域住民に最も人気のあるアカシア蜂蜜は、その大部分が河川区域内のハリエンジュが蜜源樹木となり生産されております。最近の大型台風や過去に経験したことのない激しい集中豪雨の発生を体験するにつれ、災害に強い河川の整備及び管理にあたっては、河川区域内の樹木が障害となる場合が往々にしてありますことは、十分に承知をしておりますが、地域内の養蜂家が地域住民の求めるアカシア蜂蜜を提供するためには、河川区域内のハリエンジュに大きく依存しております実態をご理解下さり、河川整備にあたっては、河川管理上支障とはならない範囲で、間引き伐採を行うなどの方法により、河川区域内の健全なハリエンジュの残地等をご検討くださいますようお願い申し上げます。</p>	<p>ご意見として承ります。 河川内の立木伐採は、治水上の安全度向上を目的とし、河積断面を阻害している箇所のうち、緊急性の高い箇所から順次実施しております。また、伐採する際には、事前に関係者の皆様へ周知してまいります。</p>
2	<p>「川の流ればきれいか、森の緑はすこやかか」上流から海に至るまで大地を潤し人類の生存権を握る大河。良質な水が流れ、万全な水害対策あって流下することを前提としての河川整備を考える。</p> <p>県民として河川が豪雨、濁水の両極にも万全な調整機能があれば、豊かな水資源が確保され、かんがい、水道水を始め、小水力発電等、沿岸住民に恩恵が行き渡り、海まで届く利水の源であること、広範にわたる公益の確保が命題の河川整備計画を早期完結に導くことを願う。</p> <p>実現には、水質悪化、増水時の調節機能、濁水、季節ごとの利用増減の調整、リアルタイムの増水時の情報発信、下水道の整備及び全戸設置による豪雨対策、早期の計画実現を発信したい。</p> <p>1)P14-P15 第2項 第3項 第4項 現状と課題の補完 河川の水質保全として本題実現には水質汚濁要因の対策が必要。 ①汚染水の流入原因として流域のメガソーラー等の管理放棄地対策、下水道接続工事の放置住宅の解消、公共下水道に準じる施設-化学薬品使用の工業所の排水の抜き打ち水質検査の徹底、田植前後の農薬散布直後の排水の禁止徹底。源流域にみられる不法投棄防止策</p> <p>2)P28 第2項 河川に関する情報提供の補完 ①全国を網羅したサイトで上小地区を見る限り所沢川、金原川には高速道を超え集落の上流に河川監視カメラの増設が必須であり、危惧される地殻変動による貯水ダムの子期しない破壊は未曾有の災害を広げる、寛保の大水害の歴史がある。いわく、即時対応には中、上流域、ダムの観測地点の水位の増減、前兆をいち早く捉えることが大切であり、下流域には監視カメラが多く配置の現状は後手に回らないか、海外サーバーから不正アクセス操作にも防止策の徹底を。</p> <p>3)P14 第2項 利水に関する現状と課題の部分の補完 ①直近の電力逼迫、電気料金の高騰に際し県主導によるモデルになる小水力発電設置試験をしても良いのではないかと、岐阜県「角野製作所」製(ピコピカ)が目まされている。</p> <p>4)P16 河川整備計画の目標に関する事項の補完 ①近年の災害多発により計画の前倒し、緊急復旧等課題が増え、容易ではないが、各計画とも早期の実施を願う。東御市求女川の高速度交差部分より上流の集落までは下流から順にいくとわかれ久しい。各計画の優先早期着工を願う。 ②前年に矢出沢川 国道交差付近でのバックホウの横転の原因、数年前に田中橋下流の本海野付近の千曲川護岸工事のやり直し工事があった。国、県も含めて監視、監督以前に大手受注業者が工事を下請け、傘下の企業連合等に回す慣行は害悪である。</p>	<p>1)①市町村及び関係機関と連携し、河川環境の保全に努めてまいります。 2)①周辺の土地利用状況、想定される浸水被害の規模等を勘案し、必要に応じて増設を検討してまいります。 3)①ご意見として承ります。 4)①沿川の人口や資産の集積状況、流域内の土地利用の状況、災害発生時の社会的影響、他河川の改修規模とのバランス及び工事・計画の進捗状況を考慮し、緊急性の高い箇所から順次事業を進めてまいります。また、ハード対策を進めるとともに、市町村等関係機関と連携し、防災意識の向上や避難訓練の継続的な実施など、ソフト対策に努めてまいります。 ②ご意見として承ります。なお、安全管理については、引き続き建設現場の安全対策の点検を行うとともに、労働安全衛生法等関係法令の遵守を徹底し、事故防止に万全を期するよう努めてまいります。</p>
3	<p>浦野川の整備促進について 道路浦野川は、一級河川ながら他の一級河川に比較して整備が遅れています。現在の堤防で、右岸・左岸どちらも歩けない状態になっている堤防箇所から整備し、「上田道と川の駅」から「夫神橋」まで、①堤防道路が一本の線として繋がるようにすることを最優先して整備し、②落差の高い堰堤への魚道設置も必要です。 右岸・左岸いずれかの堤防道路が繋がれば、橋を使って一本のウォーキング道路・サイクリング道路としても、機能します。 堤防を通行する人が増加することは、親水・防災意識の向上にもなります。 整備をするにあたっての堤防道路整備に優先度は、次のとおりとなります。 1位 岡橋～浦野橋間の右岸堤防道路 2位 永代橋～岡久保橋間の右岸堤防道路 3位 寺口橋～柳原橋間の右岸堤防 特に最優先したい岡橋～浦野橋間堤防の現状と整備 右岸堤防は、軽トラック程度の車さえ通り抜けられないほど堤防上の幅が狭い(長さ150m程にわたって、頂上部が1.0m～1.5m)うえ、竹・アカシア等があり堤防草刈り作業用の軽トラックも通り抜けができない状態で、防災上も危険です。 この箇所は、アカシアと竹の切株も残っているため、自治会による手作業では、メンテナンスができない状況です。 左岸は崖になっており堤防道路新設は無理です。 右岸堤防を、早急に軽トラックが通行できる程度の道幅の舗装道路に整備促進したい。 段差の高い堰堤に魚道を設置する 段差が高く、魚の上下流の移動が遮断される堰堤が何か所か有るので、魚道の設置により、水生動物にとって住みやすい自然豊かな浦野川にしたい。</p>	<p>①管理用通路は、河川管理上必要な施設であり、洪水時の水防活動等において支障が生じた場合は、必要な対応を検討してまいります。 ②県内河川は総じて急峻な地形により河床勾配が急な区間が存在し、落差工や床止工が設置されている箇所が多くございます。新たに河川工事を行う際は、現状の河床形態や動植物の生息・生育・繁殖環境に配慮した瀬・淵等の保全等により影響の回避・低減に努め、良好な河川環境の保全・復元に努めてまいります。</p>